



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「広げよう ワイズの仲間」
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」
「休まず たのしく 元気よく」

2018年2月号

NO 498

しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

ローマ書 5章8節

TOFに想う

世界の人口 73 億人のうち 9 人に 1 人に相当する 8 億人が飢餓（健康で活動的な暮らしを営むための十分な食料が得られていない状態）に苦しんでいるとのことである。飢餓のない世界を実現することは決して不可能ではないとの認識のもと、飢餓のない世界を目指して活動する多くの機関も世界にはたくさんある。

食料の偏在を是正する活動、農地の開発・改良（道路や井戸、灌漑設備等生活基盤の建設や修復工事等）等負の連鎖から脱却する活動も盛んに行われており、同時にその緊急対応としての食料供給も盛んに行われている。

しかし一方で武力紛争がその活動を妨げている要因の一つでもある。武力紛争によって生活基盤を奪われまた難民となることを強いられて飢餓に喘ぐ人々、彼らは飢餓的ばかりでなく医療的弱者でもあるが、これらの社会的

神谷幸男

弱者と言われる人々に寄り沿って手を差し伸べることは、イエス・キリストの教えでもあり、その教えに基づいて活動するワイズメンズクラブの TOF 活動は素晴らしい運動であると思う。

この事業である弱者への支援は具体的には「献金」であるが当クラブにおいてはクラブ年会費から支出するためにもすればその意識が薄れてしまい勝ちであるが改めて留意したいものである。

東日本区で決めた諸献金は TOF 献金の他に CS、ASF、FF、EF、RBM、YES があるが、これらの献金も年会費から支出しているので献金する意義をつい忘れ勝ちであるが、これらの献金も使われ方の違いがあるだけで内容的にはいずれも社会的弱者と言われる人々に寄り沿う事業であることを思い起したいと思う。

(クラブ地域奉仕担当)

隅田川・永代橋、清洲橋

WHOウォーキングのご案内



関東大震災で被災した帝都・隅田川の橋梁復興は、国力を結集した大事業でした。そのシンボル、永代橋、清洲橋などの個性豊かな復興橋梁と周辺を歩きます。

期 日：2月24日（第4土曜日）

コース：永代橋—清洲橋—清澄庭園—新大橋—芭蕉記念館—両国橋—安田庭園

集 合：メトロ東西線・茅場町8番出口 9:45

解 散：JR 両国駅 14:30

参加費：300円。初回は+200円

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 石井 元子
書 記 篠原 文恵
会 計 村野 絢子
担当主事 宮崎 純

1月の記録		ニコニコ	7,450円
在籍者数	16人	メネット	0人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	1,546円
出席者数	13人	コメント	0人
出席者数	13人	ファンダ残高	194,611円
メーキャップ	1人	ビジター	2人
メーキャップ	1人	ホテ校ファンド	5,150円
出席率	93%	ホテ校残高	49,772円
出席率	93%	出席者合計	18人
前月修正	-	WHO参加者	27人

2月例会のご案内

今月の強調テーマ： TOF

2月の強調月間はTOFです。国内外の紛争や凶作によってその日の食事にも事欠く人々がこの世界に少なからずいることを再認識し、その原因やそれらの人々の痛みを覚えたいと思います。

2月例会は当クラブにとっても喫緊の課題である会員増強について課題解決の道を皆で探ってみましょう。

日時：2月15日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：500円(どなたも)

担当：B班(石井、神谷、河原崎、宮崎)

HAPPY BIRTHDAY

8日 高嶋美知子さん

受付 石井 元子
司会 神谷 幸男

開会点鐘 会長 本川 悦子
ワイズソング(いざ立て) 一 同
聖書朗読・感謝 神谷 幸男
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 会 長
会食

会員増強に取り組むための懇談会

座長 神谷幸男

ハッピーバースデー 会 長
諸報告(地域奉仕、会員増強、国際・交流、ユース) 会 長 他
YMCA報告 担当主事・宮崎 純
ニコニコ献金 一 同
閉会点鐘 会 長

- 1月第2例会(事務会) -

日時：1月25日(火)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

出席者：大野、神谷、篠原、鳥越、
本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①1月のデータを確認した。
- ②1月次会計報告を承認した。
- ③東京グリーンクラブ 45周年記念例会の参加申し込みをした。
出席予定：大野、神谷、高嶋、吉田

- ④次年度在京ワイズメンズクラブ新年会ホストクラブは多摩みなみクラブに決まった。

<協議事項>

- ▲3月例会：東京世田谷クラブとの合同例会

日時：3月15日(木)

19:00~21:00

場所：山手センター 1F

卓話候補者は未定。

- ①2月例会の食事代1,500円×16人分24,000円をTOF献金とする。
- ②山手センター耐震工事による他の例会場確保のため、候補地を検討した。この件で本川会長

と高嶋さんが星野太郎総主事と面談をする予定。

- ③次期クラブ会長候補の人選を話し合い、本川会長に次年度も続投をお願いすることになった。
- ④当クラブのブリテンを現行の6頁から4頁に減らす提案があった。(書記・篠原文恵)

YMCA Today

◇東京 YMCA 本部事務局と会員部は下記に移転致しました。

〒169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 6階
Tel 03-6302-1960

東京メトロ東西線：早稲田駅(出口2または3b) 徒歩5分・高田馬場駅(早稲田口)より都バス5分(「学02 早大正門行」「西早稲田」下車歩3分)

◇4月からの東陽町コミュニティーセンターはこれまでの「歌の広場」や「陽春の集い」「オープンハウス」などの活動に加えて、新しく子ども食堂「下町こどもダイニング」や「おもちゃ病院」を開始します。子どもから高齢者、外

国籍の方など、地域のさまざまな方を対象としたプログラムを、より積極的に取り組むためリニューアルオープンします。これからもよろしくお願ひ致します。

◇2018年の世界のYMCAは「セーフ・スペースとしてのYMCA」という事に最も力を入れていきます。価値観の多様化、さまざまな差別や偏見、性別、年齢、身分、宗教や貧富の差などによる不正といったことによる心理的・物理的暴力を排除し、全ての人が受け入れられ、安心できる場所としてのYMCAを世界中で実現しようとしています。身近なことではありませんが世界でのYMCAの取組みをご紹介します。

(担当主事 宮崎 純)

BF使用済切手提出者

下記の方々が1月例会の折に使用済切手を提供してくださいました。有難うございました。

提供者は、大野、神谷、河原崎、竹内、鳥越、それ以前の提供者は大野、篠原、吉田、佐藤幸楽。

(山田利三郎)



姫路城改修の現場を素晴らしい話術で語る
藤森繁太郎さん

白鷺城の平成大修理 —2018年1月初例会報告—

新年初卓話は、国宝で日本最初の世界文化遺産でもある姫路城の「平成大修理」でした。スピーカーは、村野絢子さんが早朝の神田川散策で知り合った藤森繁太郎さん。鹿島建設のOBです。

レジュメとDVDを用いての分りやすいお話となりました。

国宝修理だけに工事は慎重の上にも慎重に進められ、お話にもその緊張感が伝わってきました。また、工事期間中も観光客の減少を防ぐために見学路を確保するという難題がありました。

まず、高さ46メートルの大天守を丸ごと覆う素屋根が組み立てられました。大天守と3つの小天守を渡櫓でつなぐ複雑な構造、屋根のさまざまな直線と曲線への対応。建物を傷つけないで、鉄骨をクレーンで吊り上げ、組み立てるためにコンピューターによるさまざまなシミュレーションが行われました。軒と鉄骨の間隔が、10cmしかないところもありました。ちょっとしたブレも許されません。鉄骨の接合も、火花の出る溶接は行わず、ひとつひとつボルト締めにしました。継承されてきた技術と最新技術の合体の場となりました。

工事は、屋根瓦の全面葺き替えと漆喰塗り大壁解体、漆喰塗などが行われました。

5年の歳月をかけて、平成27

年3月に完成しました。

慎重に素屋根を解体されて出現した姿は、まさに白鷺のまばゆさでした。「白過ぎ城」との声ありましたが、45年前の「昭和の大修理」完了時も純白だったそうです。城郭の保全、修理には膨大な費用がかかります。明治維新の時に各地の城で、維持費の財政負担を理由に解体したものがあつたそうです。今後の城郭の保存には新しい視点が必要と感じました。

出席者のほとんどが、姫路城を訪れたことがあり、質問、感想も多彩でした。

藤森さんの専門は土木なので、ダム、橋梁、トンネルのお話しもうかがいたいと言う希望があり、藤森さんからも、大変気持ちの良い会だと評価いただきました。

(吉田明弘)

出席者:<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、竹内、鳥越、宮崎、村野、本川、山田、吉田、<MU>神崎、<ビジター>長谷川あや子(東京八王子)、藤江喜美子(東京たんぼぼ)、<ゲスト>佐藤幸楽、恒石浩志、藤森繁太郎(卓話者)

小江戸・川越の Old&New —WHO 1月例会報告—



川越のシンボル、蔵の町の『時の鐘』

1月27日は川越散策。週初めの大雪と最低気温マイナス10℃という予報からか、参加を取りやめた方が多かつたようです。27人が川越駅から小江戸巡回路線バスで喜多院へ。運転手さんが、運転しながらおしゃべりをしてくれて、雰囲気盛り上がりました。ここから予約していたボランティアガイド3人の案内で、喜多院(北院)、中院、南院跡、書院、五百羅漢を巡りました。喜多院と家康以後の徳川家の関係に思いを深くし、江戸城紅葉山から江戸時代に移築した、家光誕生の間、春日局化粧の間の畳の冷たさが身に沁みました。

その後は、参加した川越クラブの牛村永代さん、利根川恵子さん、吉田公代さんの案内で町の移り変わりなど、地元で生活をする人ならではの話を聞きました。

童謡「通りゃんせ」で知られる三芳野神社の細道、市役所前にある川越城を建造した太田道灌像を見てから、「蔵の町」に入り、三々五々の昼食をとりました。ここでも川越ワイズが大活躍。

食後、まつり会館で川越祭りの映像や山車を見て、熱気と興奮を味わい、菓子屋横丁をぶらぶら歩き、改装なった「時の鐘」から、レトロな建物が続く大正浪漫夢通りを抜けて、解散しました。

通りは、観光客でごった返し、修学旅行で台湾から訪れていた高校生男女が寒空に貸衣装の和服姿で、はしゃいでいました。

ワイズ関係の参加は、石井、鳥越、吉田(東京西)、関(石巻広域)、樋口(東京グリーン)、川越3人、中澤、藤江(東京たんぼぼ)でした。

(吉田明弘)



一夜漬けの太鼓演奏で会衆を沸かせたホストクラブの有志（在京クラブ新年会）

在京クラブ新年会報告

2018 年在京クラブ新年会は 1 月 13 日(土) しののめ YMCA 幼稚園、ノアホールで開催され、約 150 人が参加しました。

第 1 部礼拝では、堺福音協会、東京チャペルの北秀樹牧師により「しもべの心」と題した奨励を頂き、その後東日本大震災復興支援のための献金をいたしました。

懇親会の前に「日本一周酒めぐり」と題して、全国のお酒やワインが用意された部屋で、各クラブのメンバーと食前酒を楽しみました。

第 2 部の懇親会は、ホストクラブである

東京ベイサイドクラブの有志による、和太鼓演奏で始まり、峯岸友彦会長により挨拶と点鐘、菅谷淳東京 YMCA 総主事、湯浅慶東京 YMCA 学院学院長、栗本次郎東日本区理事より祝辞を頂きました。

その後東日本区へ礼拝献金(91,710 円)の贈呈、次期日本区理事による食前の感謝と乾杯で、

ホール中央に用意されたインド人のシェフによるインド料理を楽しみました。

ショウタイムはサクソとピアノで軽快なジャズ演奏を楽しみ、その後、参加クラブの紹介、アピールタイムでは、第 21 回東日本区大会のホストクラブとなる沼津クラブからのアピール等があり、藤原宏隆副会長による閉会挨拶、点鐘ですべて終了しました。

今回、強く印象付けられましたのは、ホストクラブのメンバーの若さです。メンバーはこの幼稚園の卒業生のご父兄が多いと伺いました。プログラムにも表れておりましたが、終始、メンバーのエネルギーがみなぎっておりました。(鳥越成代)

参加者：大野、石井、河原崎、神谷、神崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、宮崎、村野、吉田

まさに一幕ものの芝居 川越クラブの例会

「ウォーキングに来るなら例会にも」との吉野勝三郎会長の誘いで、川越クラブの例会に参加しました。会場の川越 YMCA を訪ねたら、いたのは 7 人(後から 2 人)「えっ！この人数で川越区大会をホストしたの？」

4 時開会。点鐘が響くと、ワイズソングと来て、条件反射で食欲が出ましたが、食事はなし。今月は新年なので、全員が抱負を述べ合い、懸案についての協議でした。①次期会長の人選、②20 周年記念行事の是非、③クラブ事業の「紅赤」販売継続の是非、④同サツマイモ菓子の販売継続の是非など、いずれも重い課題。でも、ビジターにとっては立ち入れない協議と思いました。それが、熱い議論にあつという間にひき込まれました。

皆が問題をよく理解していて、自分の意見があるのです。激しく



WHOのあと、川越クラブの例会に出席

主張してもどこかで笑いが出るのです。伝統あるクラブ事業も、もはやこれまでと、ハラハラしましたが、どこかで一転、やろうと言うことになりました。製造委託する芋菓子の販売でも、一部 YMCA に協力してもらえないだろうかという問いに、若い担当主事の河合今日子さんが「それは全然」というのでダメかと思ったら「大丈夫ですよ」と応えて、一歩進みました。

最後は、その会計を前月入会し

たばかりの利根川太郎さんが自ら引き受けました。これでめでたく決着がついたと一安心したら、あるメンバーが「入会したばかりの人にはもっと全体を経験してもらいたい。そんな細かい仕事は私がやらしてもらおう」と、ど

んでんがえし。

議事は定刻 6 時に終わりました。なにか、ビジターのために芝居を見せてくれていたようにも感じました。皆が発言し、人を責めないから、最後に一致した力が出るのでしょう。

食事は、それぞれで撮ることになっているそうでした。私たちが、折角だから川越で食べて帰りたいと言うと、数人の案内でしばしの楽しい時を過ごしました。

(吉田明弘)

☆☆ インタビュー ☆☆ 榎本 博さんに聴く

* * *

榎本博さん（伊東）は、今年度の区会員増強事業主任です。自然に人の懐に入れる方とお見受けしました。（吉田明弘）



—伊東クラブは、区の中でも勢いのあるクラブですが、メンバーの年齢構成は、どうなんですか。

「平均年齢は 59.2 歳。40 代から 60 代が中心で、この年齢層に 22 人います。でも年齢など関係なくベテランから若手までが共に行動できるクラブです」

—伊東は観光地という印象がありますが、メンバーには観光関係の方が少ないですね。

「たしかにそうです。観光関係といえば、伊東芸伎置屋組合の理事長だけで、他のメンバーは、会社員が 30%、事業主 70%です」

—榎本さん自身は。

「ボクは内装仕上工事業。伊東クラブでは一番多い建築関係です」

—伊東のご出身ですか。

「生まれも、育ちもほぼ伊東です」

—子どもの頃は。

「明朗快活！ 天真爛漫！ 時に破天荒！ 自分で言わないと誰も言ってくれないので言いますが、メッチャ良い子でした」

—部活は何を。

「小学校で野球からサッカーに転向して、高校卒業までやっていました」

—家業を継がれたのですか。

「いいえ。プログラマーを目指しましたが挫折して、建築資材の販売メーカーに勤めたのですが腰を痛めて休んでいた時、叔父に『体に負担が少なく儲かる仕事な

い？』って聞いたのがきっかけで、今の仕事に就きました。25 歳で独立して、すでに 29 年。四苦八苦しています」

—内装仕上げの修業とかは。

「藤沢の内装工事会社に職人の見習いとして勤めました。元々、細かい作業や図工が好きだったり、負けず嫌いだった事もあり、習得するまでは早かったですね」
—なにか決断する時に心に浮かぶ座右の銘は。

「考えるな。感じろ！」（ブルース・リー）かな…」

—ダイビングのインストラクターもやられていたとか。

「よくご存じですね…。ライセンス取得の指導をしたり、ガイドとしてダイビングスポットでのダイブに付き添ったりしていました。当時はインストラクターというだけでモテたんですよ（笑）

趣味でしたが腰痛で止めました」
—ワイズメンズクラブに入会された動機は。

「他の奉仕団体に入る方向でしたが、堀崎龍夫ワイズの一言で…」

—なんと言われました」

「お前には、ワイズの方が合っている！」

—すぐに決断しましたか

「いいえ、叔父が伊東クラブのメンバーだったので、それが嫌で 2～3 年渋っていたら、『退会したから、とにかく例会見学な！』と、1 月例会に連れていかれ、2 月に熱海グローリークラブと下田クラブの例会に出席して、3 月入会。敷かれたレールを知らないうちに走っていました」

—入会してからの居心地は。

「当時のメンバーは個性豊かで強烈でしたから “触らぬ神に祟りなし” と見ているだけでした。でも、いざとなった時の結束力は今以上にあり、心強かったですね。居心地だけでいえば、半端じゃなく悪かったです」

—伊東クラブは、少年少女合唱団

支援、市営キャンプ場施設整備、クラブが行う YMCA キャンプ、市内小学生ドッジボール大会など活動が活発ですね。

「企画から運営まで、すべてをメンバーで行いますので、本当に大変です。なぜ長い間続けられているかといえば、子どもたちの笑顔が嬉しかったり、外部より評価を得られたり、やり甲斐につながるものが多いからです。2 月のスキー教室にも 100 人を超える応募があり、先着 88 人の子どもたちと 15 人のメンバーで山梨県清里へ行きます」

—アルコールをやられない。

「飲めたら楽しいだろうな～とも思いますが、飲まなくても一緒に楽しめるからよしとしています。運転手はボクに課せられた役割と思ってます（笑）」

—今年度、区の会員増強事業主任ですね。新クラブづくりの機運が盛り上がりを見せています。榎本さんご自身は、多くのメンバーを入れていきますね。どういう人に声をかけているのですか。

「事業主任としては、新クラブ設立＝会員増強という目的をもって環境変化に敏感に対応できればと考えます。永続的に行動することが発展につながるのでも思います。私が入会を誘うのは、仕事関連がほとんどですが、特殊技能など持っていたり若手だったりすれば、なおさら…。その活力を持ってワイズに協力して欲しいとお願いするだけです」
—榎本さんの理路整然とした爽やかな語り口。どこで身に付けられたのですか。

「いつの間にかこんな風になっていました。ボクはアホですから、後先考えずに物言って、よく親や友達に怒られていましたよ。それを理路整然なんて表現して頂けるのは、最初で最後でしょうね。叱ってくれた人たちに感謝です」

—ありがとうございました。

8) 高齢者の肉食

70歳以上の5人に1人がたんぱく質不足による「栄養失調」との指摘がされている。かつては高齢者は肉料理を控えるとの誤った認識があったが、最近では、筋肉量と筋力維持のため、平均60歳の男性1日85g、女性75gのタ

ンパク質が必要で、動物性タンパク質が大切との長期の「米国フラミンガム研究」の発表などから、高齢者には肉料理を積極的に奨励している。

特に60歳を過ぎてからの粗食は低栄養のおそれがあると言われ始めた。毎食とは言わず、毎日

でも特に血清アルブミン不足を指摘された高齢者には摂るべき食材の一つである。健康的なウォーキング継続のためにも改めて肉食の大切さを知らされる。

ナッツや豆類などの植物性蛋白では筋肉量には効なしとされている。

シゲとあーやの子育て①

村野 絢子

またまた、女の子！と言われた四女Yの誕生。長女とは7つ、次女と4つ、三女と3つはなれた赤ちゃんは格好の遊び相手。長女はクラスの友人に四角いハンカチでおしめの畳み方を教えたという。人形でなく妹で練習していたので彼女の得意技だった。

「あなたのクラスの子は良いママとパパになるわね」とほめた。姉兄たちが学校に行くようになるとYが1人で母親を独占するこ

とになると考えたようで「幼稚園に行ったほうが良いよ」と口をそろえて言う。幼稚園にいかないメリットもあると思い、上の4人は直接小学校に入学したが、内心幼稚園に行きたかったのだろう。間接的に幼稚園生活を体験することになった。

小学校のPTAに加えて幼稚園の母の会と忙しい生活、小学生が4人もいれば有名人、とうとうPTA会長に押し出されてしまった。末っ子のYに自分より小さい子がいる体験になるとベビーシッターをしてよそのお子さんを

毎週1回家でお預かりした。

Yが小学生になると長女に誘われてYMCAのフレンドシップキャンプ(肢体不自由児と健常児と一緒に生活するキャンプ)に参加した。6年の担任は「遠足でホームに足の弱い方を見つけ『みんな、下がって通してあげて』と大声で注意していましたよ」と伝えてくださった。

兎を乳母車に載せローラースケートで2km離れた桜上水の福尾昇一さん宅に用事に向かう姿を見た母は「Yちゃんはピッピ〈長靴下のピッピ〉ね」と笑った。



ニューイヤコンサートで、はざた雅子さんの奏でるカンテレ(フィンランドの民族楽器)の調べに自席を立ててステージに座り込んで聴き入る参加者

東山荘・年末年始
家族パーティー参加記

今回で第52回であるとのことであるが、2017年12月30日から2018年1月3日に開催された「東山荘年末年始家族パーティー」に今回も参加した。かつて山中湖センターで年末年始家族パーティーが開催され数回参加したことがあったが、この催しが行われなくなって数年後の2015年末から参加するようになった。しかし

今回は「家族パーティー」にもかかわらず、相棒が緊急入院したため単身で参加することとなった。参加者は43家族、183人であった。普段は別々に住んでいる3世代家族がこの折に一族郎党が集まって新年を祝うという微笑ましい家族も数家族見受けられた。5日間様々な催しが東山荘スタッフによって企画され幼児からおじいちゃんおばあちゃんまでが楽しんでいた。

私はメインイベントと称する5プログラムと各個プログラム「毎朝のデボーション」「元旦礼拝」「初釜」「切り絵ワークショップ」「ふるさとの古道・仙石原往還を歩く」「紙ヒコーキ道場」「富士山に2015年の初日の出を見に行こう」「ふるさとの古道・御殿場馬車鉄道を歩く」、そして年に1回開催される「東山荘クラブ例

会」なる文化的、交流的、自然に触れるネイチャープログラムを楽しんだ。

東山荘クラブ例会には、小峰理孝会長(埼玉)以下12人(他の4人は他のプログラムに参加のため欠席)が参加し交歓のときを持った。親しくしている山田孝彦さん(大阪センテナアルクラブ)、杉浦真喜子さん(大阪なかのしまクラブ)とは西日本区大会以来半年ぶりに再会し交流を深め、箱根にドライブもして楽しむことができた。皆さんも一度経験してはいかが。(神谷幸男)

編集後記

北陸地方は30年来の大雪で日常生活もままならぬとのこと、心よりお見舞い申し上げます。東京地方の厳しい寒さも、楽しい記事満載のブリテンを読んで心温まれば嬉しいですね。(SK)